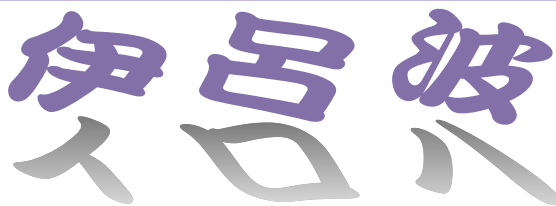


第2回

日本語の教え方

にほんごのおし かた



読解

日本語国際センター専任講師 木谷直之
にほんごこくさい せんにとこうし きたになおゆき

海外で活躍している日本語教師のみなさんから、よく「日本語教授法を知りたい」「すぐに使える授業活動を提供し
てもらいたい」という要望をいただきます。「日本語の教え方 イロハ」のコーナーでは、日本語国際センターの専任
講師が、日本語の教え方を学んだことのない方に、「コースデザイン」や「読解」「会話」「聴解」「評価」などの基本的
な教授理論、教授知識をわかりやすく解説します。既に日本語を教えている方も日本語教授法に関する基礎固め、知識
の再点検にお役立てください。

はじめに

私たちは毎日、いろいろなものをいろいろな目的を持って、
いろいろな読み方で読んでいます。例えば、新聞や雑誌を読む
ときは「タイトルや見出しを見て、読みたい記事を探して読む」
ことがあるでしょう。小説や物語を読むときは「次に何が起
るか予測しながら読む」「文脈から言葉の意味を推測しながら
読む」ということもします。論文やレポートのような専門的な
文章を読むときは「キーワードを探しながら読む」「難しい専
門用語を辞書で調べながら読む」「一文ずつ正確に母語に訳し
ながら読む」「理解を確認するためにくり返し読む」という読
み方をします。詩を読むときは「声に出して読んで、音のイメ
ージを楽しみながら読む」という読み方もあるでしょう。

「読む」ことを教える目的は、学習者が日本語でいろいろな読
み方ができるようになることです。そのために教師は、授業中、
どんな「読み」の練習や活動をすればいいのでしょうか。今回
は、まず、私たちがどのように読んでいるか（「読み」のモデル）
をふり返り、次に、学習者にどんな読み方ができるようになっ
てほしいか（「読み」のストラテジー）を整理し、最後に、どの
ように「読み」の授業を計画すればいいかを考えてみましょう。

「読み」のモデルとスキーマ

「読み」の過程について、3つのモデルが考えられています。
ボトムアップモデル、トップダウンモデル、そして相互交流モデ
ルです。ボトムアップモデルは、文字や語彙のような小さな単
位から文や段落という大きな単位へと解説を進めていく「読み」
のモデルです。トップダウンモデルは、最初に読む目的や予測
があって、文章を読みながら、目的に合うものを探したり予測
が正しいかどうかを確認したりしながら読み進めていく「読み」
のモデルです。相互交流モデルは、「読む」ことをボトムアッ
プかトップダウンかというように、一方的な過程と考えず、必
要に応じて2つのモデルを交互に使い分けたり組み合わせたり

することによって「読み」の過程が作られるという考え方です。

これらのモデルを学習者のレベルに当てはめて考えてみま
しょう。初級レベルでは、文字や基本的な語彙・文型を正確に覚
え、それらを自動的に使えるようになるための練習のくり返し
が中心です。しかし、「読み」の練習も限られた語彙・文型の知識
をもとに丁寧に読み進んでいくボトムアップモデルの読みが中
心になります。しかし初級後半、中級と進むにつれ、ある程度
の長さのまとまった文章を読む練習が重要になると、ボトムア
ップモデルだけではなく、トップダウンモデルや相互交流モデ
ルの読みをうまく組み合わせることが必要になります。

トップダウンモデルや相互交流モデルの読みでは、読み手が
テキストの内容を「予測」したり「推測」したりすることが非
常に重要な場合があります。私たちはこの「予測」や「推測」
をどのように行っているのでしょうか。

何かを読むとき私たちは、自分が持っているいろいろな背景
知識（スキーマ）、すなわち、文字や語彙、表現、文型などの
言語知識や、テキストの内容や構造についての情報や知識、体
験などを、読んでいる内容に関連づけて意味を理解しています。
そして、新しく入ってきた情報が自分のスキーマと違う内容を
含んでいれば、スキーマは再構成され、「新しいスキーマ」に
作り直されます。ですから授業でも、学習者のスキーマを活性
化し「読み」の活動に結び付けていくことが大切になります。

スキーマは短時間にまとめて導入すればいいというものでは
ありません。初級段階から基本的な練習や活動の中で、場面や
話題を適切に調整することによって、日本人の生活や習慣、日
本の文化や現代事情などの情報や知識を少しずつ導入して、学
習者のスキーマを豊かにしていくことが必要です。

「読み」のストラテジー

私たちは毎日の生活の中で自分が持っているスキーマを活用

して、目的に応じてトップダウンモデルの読みをしたりボトムアップモデルの読みをしたりしています。そして、その中でいろいろな方策（ストラテジー）を使っています。どんなストラテジーを使っているのでしょうか。トップダウンモデルとボトムアップモデル、それぞれの「読み」でよく使われるストラテジーを次の表に整理してみました。

＜トップダウンモデルの読みのストラテジー＞
<ul style="list-style-type: none"> ● 文章の内容を予測しながら読む ● 文脈から未知語の意味を推測しながら読む ● 文章に速く目を通して話の流れや大意をつかむ（スキミング） ● 文章から必要な情報だけを探しながら速く読む（スキニング）
＜ボトムアップモデルの読みのストラテジー＞
<ul style="list-style-type: none"> ● 重要な言葉や表現、難しい語彙や表現、文などをハイライトしながら読む ● 複雑な構造の文の意味を理解する（修飾関係や主述関係などを確認しながら読む） ● 文と文の接続関係や指示関係を確認しながら読む ● 文章の内容の理解を確認しながら読む（一文一文の理解から全体的な理解へ）

上の表にあげたものは、「読み」を効果的に進めるためのストラテジーですが、「読み」の目標を設定したり、「読み」の過程や問題点を自分で点検したり評価したり修正したりするためのストラテジー（メタ認知ストラテジー）も非常に重要です。私たちはさまざまなストラテジーを必要に応じて適切に選択し活用しながら読んでいるのです。

「読み」の授業を計画する

では、「読み」の授業をどのように計画すればいいのか考えてみましょう。授業で「読み」を教えるときにも、今まで見てきたような日常生活の「読み」に近い状況を作り出すことが必要です。そのためにはどのように授業を組み立てればよいでしょうか。

ここでは「前作業」⇒「本作業」⇒「後作業」の3つの段階に分けて授業を考えてみます。「前作業」では、学習者にこれから読む文章に対する興味や関心を持たせることと、文章を理解するのに必要な言語や社会文化に関する知識を導入することが重要です。「本作業」では、「読む」目的に合わせていろいろな「読み」のストラテジーを効果的に使って読む練習が中心になります。そして、「後作業」では、読み取った内容を生かした活動することと、文章中に出てきた語彙や表現、文法を利用して言語の学習をすることが重要な活動です。では、それぞれの段階で具体的にどのような活動が考えられるのでしょうか。次の表に整理してみました。

＜前作業＞
<ul style="list-style-type: none"> ● テキストの内容に関連した絵や写真、ビデオ、レアリアなどを見せたり、テープを聞かせる ● テキストのテーマについて、学習者が持っている知識や情報、経験などを話させる ● 「読む」のに必要な情報や知識を与える

<ul style="list-style-type: none"> ● キーワードを与えたり、内容理解に必要な概念や知識を導入する ● タイトルや見出しから内容を予測させる
＜本作業＞
<ul style="list-style-type: none"> ● 目的を持って読む（タスク・リーディング） ⇒「読む」前に質問を与えておく ● 大意を取ることから細部の正確な理解へ ⇒いろいろな「読み」のストラテジーを組み合わせる ● 学習者が正しく理解できているかどうかを確認する ● 自分の理解が正しいかどうか、足りないことがないかどうかをモニターしながら読む
＜後作業＞
<ul style="list-style-type: none"> ● テキストの内容についてグループやクラスでディスカッションする ● 同様のテーマについてインタビューしたりアンケートしたりする ● 感想や意見を作文に書く ● 文章中の重要な語彙や表現、文法を使って言語の学習をする

「読み」の授業で注意しなければならないこと

最後に、「読み」の授業を考えるときにどんな点に注意しなければならないか、整理しておきましょう。

まず、テキストのレベルが学習者のレベルに合っているかどうかチェックしましょう。特にトップダウンモデルの読みの練習をさせるときは、学習者にとって難しい言葉や文法が多く含まれている文章では効果的な練習はできません。難しい語彙や表現が少し含まれているようなレベルの素材を探すこと、必要に応じてテキストを学習者のレベルに合うように書き直すことが必要です。

テキストの内容が学習者の興味・関心に合っているか、学習者がどのようなスキーマを持っているかを考えることも大切なチェックポイントです。前述したように、学習者のスキーマが充分ではないと考えられる場合には、読む前に「読み」に必要な情報や知識を導入したり確認したりする作業が重要です。逆に、スキーマに頼りすぎた「読み」の弊害についても考えなければなりません。持っているスキーマが先入観や偏見になって、正しい「読み」ができないこともあります。

いろいろなタイプの文章を選択していることも大切なポイントです。「予測」や「推測」がしやすいからといって、物語や小説ばかりを読んでいては、多様なストラテジーのトレーニングができません。さまざまな内容や構造を持つ文章をバランスよく組み合わせて「読み」の練習をすることが大切です。

＜参考文献＞

岡崎眸・岡崎敏雄（2001）『日本語教育における学習の分析とデザイン—言語学習過程の視点から見た日本語教育』凡人社
国際交流基金（2006）『国際交流基金日本語教授法シリーズ7 読むことを教える』ひつじ書房
館岡洋子（2005）『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』東海大学出版会
J.T. ブルーアー著、松田文子・森敏昭監訳（1997）『授業が変わる—認知心理学と教育実践が手を結ぶとき』北大路書房